



り  
ふ  
る

さつぽろ



特集

札幌発！

私たちの「女性活躍推進」

コラム

ジャーナリスト

治部 れんげ さん

春

38

2015 Vol.

# 札幌発！

## 私たちの「女性活躍推進」

多様でポジティブな女性が集まると、みんなが元気になる

「札幌発！女性が当たり前前に働くことのできる社会へ」に登壇して

ジャーナリスト 治部 れんげ

女性の多様な働き方をもっと発信したいー。  
SAPPORO WOMEN'S EXPOに参加して考えました。私が登壇したのは、「札幌発！女性が当たり前前に働くことのできる社会へ」。

こちらのセッションは30分強のミニ講演2本とパネルディスカッションで構成されました。大学生を共働き家庭に送り込む「ワーク・ライフ・インターン事業」を手掛けるスリール株式会社の堀江敦子社長と私が、それぞれミニ講演をした後、札幌市内で主婦マーケティングを手掛ける株式会社エルアイズの山本亜紀子社長が加わり、北海道テレビ放送の森さやかアナウンサーの司会でパネルディスカッションをしました。

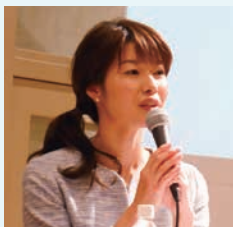
登壇した4名は、それぞれ共通点を持ちつつ、異なるキャリアを歩んでいるため、多様な視点がどんどん出てきました。堀江さんと山本さんは、どちらも初職でベンチャー精神にあふれる大手の事業会社に勤務、その経験を生かして起業し、経営者として活躍しています。堀江さんは現在20代、山本さんは40代で主婦生活を経験しました。

森さんと私は共に初職がメディア企業。子どもが2人いて、ともに同年代です。森さんはテレビで、私は経済系の出版社で10年以上働いた経験があります。森さんはテレビ

同の看板キャスターとしてメイ  
ンストリートを歩み、私は転職  
や独立を経験しています。こん  
な風に、4名の女性が集まるだ  
けでも、異なるキャリア、家族  
経験の共有ができます。

**モチベーションが低かった  
私が40歳すぎまで  
働き続けた理由**

私からは「オンナが当たり前  
に働くために必要なこと」につ  
いて、お話させていただきました。  
自分の経験から、若い頃に  
必要なのは、女性も男性と同じ  
ように鍛えてくれる「職場環境」  
や、厳しくても「男女平等な待  
遇」が大事だと思っています。  
また、出産後は家事育児をする  
ことを当然と考える「平等志向  
の夫」や、「良質な保育所」が



北海道テレビ放送  
森 さやか アナ



スリール株式会社  
堀江 敦子 社長



株式会社エルアイズ  
山本 亜紀子 社長



ジャーナリスト  
治部 れんげ

必要です。幸い私はこの4つに恵まれましたが、ひとつ足りないものがありました。それは仕事への「やる気」です。

ミニ講演では、大学生の頃、働くのが嫌でやる気が全くなかった私がいかにして、仕事が楽しくなったかお話しすると共に、その過程で支援してくれた「良いおじさん上司たち」を紹介しました。企業における女性活用が注目される中、私は男性管理職の役割に期待しています。やる気のなかった自分が仕事の面白さに目覚め、26歳から32歳までは今の夫と太平洋をはさんだ遠距離恋愛をしながら仕事を続けてきました。2人出産した後にも働いているのは、要所でサポートしてくれた男性上司の力が大きいと思っています。

### 共働き親も学生も元気になる 「ワーク・ライフ・インターン」

次に、一緒に登壇した堀江さん、山本さんのお話の中で、特に印象に残ったことをご報告します。堀江さんのお話で特に私の胸に響いたのは「両立できないのでは、という漠然とした不安」という課題です。自分の母親が主婦だったり、上司が男性ばかりだったりすると、確かに「女性の自分には無理」と思いかもしれません。私自身、1997年に就職した当時は「自分は出産したら仕事を辞めるだろう。もしくは子どもは産まないだろう」と思っていたので堀江さんのお話を20年前の自分に聞かせたいと思いました。

スリールのワーク・ライフ・インターンでは、週1回、保育園のお迎えから夕食、入浴までを学生2人1組で、3カ月体験するそうです。子守りだけではなく、子どもの行事に参加したり、休みの日に一緒に遊んだり、保護者から仕事と子育ての両立について話を聞く機会があるのが素敵です。きれいごとではすまない両立の現場を見て、大変だけど楽しい共働き子育て生活を体感できるのです。

インターンを受け入れる側の働く親にも、ポジティブな影響がある、というお話も素晴らしいと感じました。残業できない上に子どもの急な体調不良で仕事はいつも中途半端。子どもと向き合う時間も少ない。自分は一体、何をやっているのか。そんなもやもやした気分の働く親は、インターンの学生さんのキラキラした眼差しに自己肯定感を取り戻すと言います。ワーク・ライフ・インターンの学生さんは「仕事も子育てもしている親」を尊敬のまなざしで見つめますし、何より「働く親を誇りに思っている子どもの姿」に接します。インターン生を通じて、親もまた、働きながらの子育てに自信を回復する、というのです。

近年、育児休業から復帰する女性が増える中、企業はマ社員のモチベーションアップに苦勞しています。そんな中、企業としてスリールのワーク・ライフ・インターンを導入し、採用内定した学生を自社の共働き家庭に送り込む企業も出てきた、と聞きました。堀江さんのお話を聞いていて、仕事と子育てが本来の意味で統合されてきた予感があり、とても嬉しく思いました。

### 定時で仕事を終える 職場には緊張感がある

山本さんのお話でいちばん印象に残ったのは、時間制約のある従業員を本気で活用する「経営者の覚悟と手腕」です。山本さんご自身は、もともと新卒で大企業に入社。営業などで鍛え



られています。結婚退社し、主婦生活を経験した後に札幌で起業しました。就職でなく起業を選んだ理由は「子育てと両立しやすいため」と言います。簡単そうに聞こえますが、山本さんの行動力と覚悟は並大抵ではありません。「起業して従業員を雇うというのは、人の人生に責任を持つということですから。」さらっと話す山本さん、カッコよかったです。

エルアイズの従業員は皆、子育て中で「18時にはピシッと仕事が終わります」。ここだけ聞くと、女性社長はワーク・ライフ・バランスを守ってくれる！と頼りたい気分になるかもしれませんが。でも、限られた時間に仕事を終わらせるながら、顧客の期待に応えるのは、決して簡単ではありません。「毎日、分刻みでスケジュールを決めて仕事をしています。その仕事は優先順位が低いのでは？」というやり取りもしばしば。勤務時間中は緊張感が漂っています。

そう。残業なしで働くのは決して「ぬるいこと」ではないのです。むしろ、何時に終わってもいい…と際限なく残業する働きの方が、ぬるいかもしれない、と思いつながら、山本さんのお話を聞きました。企業が本気で女性を活用したいなら、時間制約のある社員がやる気をもって働ける仕組みや風土が必要です。今のところ、実現できている企業は、経営者がとても先進的だったり、一部の外資系企業だったり…というのが現実です。女性活用を謳い、女性管理職が多い企業でも、一歩中に入り本音を聞くと「夜遅くまで働

いている人がえらい。頑張っている」と評価されています。こういう文化を変えることが、本当に女性が働きやすくなる…と常々思っていたので、山本社長の言葉を全国の経営者、管理職に聞いて欲しい、と思いました。

### ■札幌の「当たり前」は日本の「すごい」だった

何より私が嬉しかったのは、参加者の方々も多様だったことです。質問タイムや終了後の名刺交換タイムにお話をしに来て下さった方は、パンツスーツが似合う「上を目指します！」という頼もしい女性もいれば、育児をきっかけに家庭に入り今はボランティア組織で役員をしているお母さんもありました。時短で働くママも、大組織やベンチャー企業など勤務先はさまざま。大学生や官公庁の方など、本当にいろいろな分野で頑張っていて、自分の言葉で仕事やボランティア活動、今後のキャリアへの思いを話して下さいました。皆さまとお話することができて、私自身がとても励まされました。

「札幌の当たり前」が「日本の先進事例」ということも、たくさん見つけました。ぜひ、皆さんのやっていることを、全国に発信して日本の女性たちを元気にしてあげてほしいと思います。そして、またいつか、お目にかかれることを心より楽しみにしています。



ジャーナリスト

## 治部 れんげ

1974年生まれ。1997年、一橋大学法学部卒業。同年日経BP社入社。記者として、「日経エンタテインメント!」「日経ビジネス」「日経ビジネスアソシエ」「日経マネー」などの経済誌の企画、取材、執筆、編集に携わる。主な取材分野は、ダイバーシティ・マネジメント、人材育成(スキルアップ)、女性のキャリア形成、男性の家庭参加、ワーク・ライフ・バランスなど。

「SAPPORO WOMEN'S EXPO」は、札幌発の「女性活躍」を考える機会として、2015年1月に開催しました。特集記事の「シンポジウム」のほかに、「起業女子のためのロールモデルカフェ」「仕事と家庭の両立、イクメンからイクボスへ」「今、必要とされる子育てを支えるチカラ」「女子学生のためのライフプランニング講座」といったプログラムを実施しました。イベントの熱気あふれる様子をお伝えいたします。

## 起業女子のためのロールモデルカフェ

### ゲスト

- 小川 聖子さん  
(エンジェルコーチング代表)
- 伊藤 順子さん  
(なでしこスクール主宰)
- 石田 香織さん  
(嬉楽株式会社 代表取締役)
- 中岡 朋子さん  
(株式会社 hillmid design 代表取締役)



札幌市男女共同参画センターには、自分のライフスタイルに合った働き方をしたい、と考える女性がたくさん集まります。そんな女性たちが働き方や生き方について考えるきっかけとして実施した「起業女子のためのロールモデルカフェ」のゲストの皆さんのメッセージをお伝えします。



小川聖子さんは、歯科医院のマネジメント業務にかかわった経験からコーチングを始めました。「ずいぶん遠回りしたね、と言われることもあるけれど全ての経験が私にとって必要なことだった」。

小川聖子さんは、歯科医院のマネジメント業務にかかわった経験からコーチングを始めました。「ずいぶん遠回りしたね、と言われることもあるけれど全ての経験が私にとって必要なことだった」。

石田香織さんは、体にも地球にも優しい食材を使った料理を提供する「オーガニック居酒屋 粹ラボラトリー」を経営しています。「迷う時は、自分の軸をしっかりと見極め、何の為にやるのか、利益とは何かを考える事が大切」。



中岡朋子さんは、帽子をオーダーメイドで作る縫製所を営んでいます。「経営者として育児と仕事のバランス、自分と家族の健康を大切にすることやスタッフや周りの人と意見を交わせる環境作りが大切」。

伊藤順子さんは、「女性がどんなライフステージでも、私らしく普通に働くことができる社会を作る」を目標に、女性の起業サポートをされています。「これからも、悩める女性のやる気スイッチを押しながら、自分自身の夢の実現のためにやる気いっっぱいで突き進んで行く。さあ、次に続く皆さん、いっしょに新しい社会をつくっていきましょうね」。

## 仕事と家庭の両立、イクメンからイクボスへ！

### ゲスト

- 安藤 哲也さん  
(NPO法人ファザリング・ジャパン ファウンダー)



皆さんのトークセッションでの一コマ。安藤さんは「育児も、仕事も、人生も、笑って楽しめる父親を増やしたい」

「上司が定時に帰れば部下も帰りやすくなる。独身スタッフはデートができる。新米パパは子育てができる。育児をしたくても仕事が忙しくてできないというのは、会社でいくら強い立場だったとしても社会的には弱者だと思う。21時以降に帰宅するお父さんは46.4%。遅くとも20時に帰らなくちゃ子どもにも絵本を読むことはできない。男性の実労働時間をどうしたら減らせるか。帰りやすい職場にするためにはどうしたらいいか。そのために必要なのがイクボス。」

NPO法人ファザリング・ジャパン代表理事を務める安藤哲也さんのお話です。

と全国各地で講演や企業セミナーを年間200回以上行っています。そして、こう続けます。「上司たちは『24時間働けますか』の世界で生きてきた。右肩上がりでの給料が伸びた時代は父親一人の給料で子どもを大学まで行かせられたかもしれない。でも、いまは違う。家を買って子どもを育てるためには共働きの方がいい。経済的にも安全。実労働時間を減らす、その代わりに業績も上げる。有休や育児といった権利を行使する以上、きちんと結果も出す。それがイクメンのあるべき姿。」

30代、40代のいわゆる現役世代、札幌の男性の心に、ずっしりと響く熱いメッセージを感じたひとりでした。

## 今、必要とされる子育てを支えるチカラ

### コーディネーター

・木脇 奈智子さん

(藤女子大学人間生活学部  
保育学科・大学院教授)

### ゲスト

・宮崎 真理子さん

(認定NPO法人フーロ  
ンス事務局長)

・越後 久美子さん

(来mamalーム主宰)

・魚岸 あや子さん

(社団法人びんぼんはーと  
代表理事)

・平島 美紀江さん

(合同会社のことへ代表、  
NPO法人のことへ理事長)



いった意識にとらわれず、社会全体で子育てを支えていくにはどうすればよいか。会場からの質問も交え、ゲストの皆さん

の経験と活動を踏まえてお話いただきました。

仕事をしている・していない、頼れる親が近くにいる・いない、職場の理解がある・ない……現在さまざまな「好条件」がそろっていないと子どもを預け、仕事と両立することが難しい。でも、どんな状況にあっても、子どもを持つことや働き続けることのどちらかを選択するのではなく、誰もが安心して子育てができる社会、仕事などと両立

することのできる社会をつくるために何が必要か。また、「子育ては母親だけが担うもの」と

活動分野もパーソナリティも全く違う5名のゲストでしたが、共通しているのは皆さん子育てをされていて、その中で感じた疑問や課題、困ったことが現在の活動の原動力となっているということ。育児中の方、育児を終えられた方、これから社会に出る方……ご参加の皆さんの立場はそれぞれでしたが、各々が今感じている悩みや困難も大切な経験であり、次は同じ悩みで困っている人を支援する側になることができる、そんなゲストの皆さんからの力強いメッセージに背中を押され、「わたしにできることは何だろう」「一歩を踏み出してみよう」とそれぞれが考えるきっかけとなったように感じました。

## 女子学生のためのライフプランニング講座

### ゲスト

・白河 桃子さん

(少子化ジャーナリスト/作家/相模女子大学客員教授)

結婚、出産しても働き続けたいと思うが、両立できるかわからない、そもそも両立ってできるの？……今回のイベントは、普段センタリを利用する女子学生からのそんな言葉がきっかけでした。学生のうちから、将来を見据えたライフプランを立てるにはどうしたら良いかを学び、女子学生同士で考えたいと白河桃子さんをお呼びしたのライフプランニング講座を学生が中心となって企画しました。

講座のはじめは、「結婚したい？仕事を続けたい？子どもがほしい？」の問いに対して、自分の気持ちをもとに1〜5段階で○をつけるワーク。働くこと自体がなかなかイメージできないので、自分が結婚したいか、子どもがほしいかという



いうことすら考えていない学生が多いはず！という学生のアイディアで行われました。「結婚はしたいな、子どもは2人かな？」

とグループごとにわいわいと楽しい時間が流れます。ここで、自分の意識を再確認したあとは、お待ちかねの白河さんの講座。「これから、夫婦共働きで子どもを育てていくことが必要となる時代、「片働き」はリスクも多い。「女性性は、細くても長く働いていくことが大切。」「女性が働き続けるためには、未来のイクメンとなる男性を見つけ、夫を育てていきましょう。」と、これから就職するうえでのヒントがたっぷり詰まっていた。その後は、学生がファシリテーターとなり、一人ひとりライフプランを考えるワークショップを行い、それに対する白河さんのアドバイスをもらいました。「結婚しても、妊娠しても、自分がしたいことを諦める必要はない、頑張っ

て！」というエールを受けて、明日を夢見る女子学生の瞳が一層輝いたように見えました！



## HOW TO



### 子育てがプラスを生む「逆転」仕事術

小室淑恵 著

1,300円(税別)／朝日新聞出版

子育てをしながら会社経営をしている著者による、ワーキングマザーと、これから仕事をしながら子どもを持ちたいと考えている女性に向けて書かれた本。「妊娠・出産でキャリアをあきらめるなんてもったいない。」「子どもがキャリアの邪魔になるなんて、間違っている!」という著者からのメッセージに勇気づけられます。

## BUSINESS



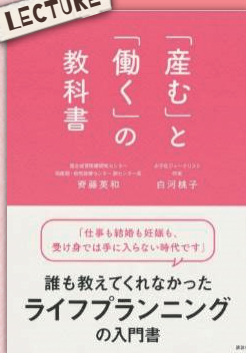
### できるリーダーはなぜメールが短いのか?

安藤哲也 著

820円(税別)／青春新書

メールや会議を工夫してどうすれば短時間で成果を出せるか、ビジネスを共にする人とのコミュニケーションはどうすれば深まれば仕事に活きる信頼関係を構築できるか。それらが労働生産性の向上にどう繋がるのか。自分や家族との時間を大切にしつつ、仕事一筋の人以上に成果を出している人の仕事術や心構えも紹介。人生も仕事も充実する一歩となること間違いなし!

## LECTURE



### 「産む」と「働く」の教科書

齊藤英和・白河桃子 著

1,404円(税込)／講談社

「学生のための妊活講座」の内容をまとめた1冊。働きながら産み育てるライフプランの立て方をわかりやすく紹介しています。「仕事をあきらめない6カ条」や「イクメンになりそうな夫のみつけ方」など、女子必見の情報も満載。また、「妊活講座「産む」×「働く」の授業」は動画でも配信されており、書籍と一緒に見るとより理解が深まります!

## SOCIOLOGY



### 女の子の幸福論

もっと輝く、明日からの生き方

大崎麻子 著

1,300円(税別)／講談社

著者は国連で開発途上国の女性支援をされてきた大崎麻子さん。「知識を味方にする」「政治に興味を持ち、参加する」など、日本の女の子にも世界の女の子にも共通する話題を扱っており、ジェンダーの問題が普遍的であることに気付かされます。きっと皆さんの周りの女の子にプレゼンしたくなるような1冊です。

# りぶるのススメ

このページではセンター職員がおススメする本をご紹介します。

あなたのお気に入りになれたら嬉しいです。

## 札幌エルプラザ情報センターを知っていますか?

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では男女共同参画を含めた4分野の資料を閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。

🌟マークが付いているものは情報センターで借りることができますので、ぜひ遊びに来てくださいね。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)  
(貸出時間 9:00~19:45)



# 札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは女性のための相談窓口を開設しています。  
相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。  
1人で悩まずに、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてお話ししてみませんか。

	女性のための 総合相談	女性のための 仕事の悩み相談	女性のための 法律相談	男性のための 悩み相談
日 時	月○○○木○土 10:00～12:00 ○火○○○○ 15:00～17:00 ※ただし第2火のみ 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○金○ 15:00～17:00	○○○○金○ ※ただし第1・3・4 第3金 13:00～15:00 第1・4金 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○○土 13:00～15:00
相談員	カウンセラーなど(女性)	産業カウンセラー(女性)	弁護士(女性)	臨床心理士、産業カウンセラー(男性)
相談方法	面談/電話(728-1225)	面談/電話(728-1227)	面談	電話のみ(728-1331)
相談内容	家族のこと、夫婦のこと、恋愛、 対人関係など女性の総合的な相談に 相談員が面談または電話で対応します。	職場における対人関係、働き方、 セクシュアル・ハラスメントなど、 女性の仕事についての相談に産業 カウンセラーが面談または電話で 対応します。	離婚や相続など、法的な見解 が必要な女性の相談に弁護士が 対応します。完全予約制なので事 前にお電話でご予約下さい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">予約受付電話：728-1255</div>	誰にも打ち明けられず、男性である がゆえに抱え込んでしまう悩みを 男性相談員が電話で対応します。

札幌市男女共同参画センターでは、内閣府男女共同参画局より「さっぽろ女性リーダーNet事業」を受託し、札幌市内の企業17社から将来リーダーになることが期待される女性社員を派遣していただき、女性が活躍しやすい環境を実現するための提言を作成しました。

会議の様子や提言はこちらから  
<http://www.danjyo.sl-plaza.jp/event/leadernet/>  
また、札幌市内で活躍する女性リーダーをまとめてみた日d(<http://www.danjyo.sl-plaza.jp/rolenodel/>)を開設しています。

札幌市男女共同参画センターでは、今後、も働く女性や企業、経済団体、行政などのネットワークを助け、女性も男性も働きやすく活躍できる地域社会づくりに向けて事業を展開いたします。

お問い合わせ

札幌市男女共同参画センター事業係  
TEL：(011)728-1255 Mail：jigyuu@danjyo.sl-plaza.jp

札幌で働く女性社員による  
「さっぽろ女性リーダーNet会議」  
を開催しました

編集後記

テレビや新聞で目にしない日がないほど、昨今「女性活躍」が注目されています。しかし、「力を発揮できる機会ができるのは嬉しいけれど、自分でできるだろうか」「働き方を変えなければならぬのでは？」と不安に思う女性も多いのではないのでしょうか。しかし、「女性活躍」の動きは始まったばかりです。札幌発の「女性活躍」の第一歩を市民の皆さんと一緒に踏み出していきましょう。

「SAPPORO WOMEN'S EXPO」がそのきっかけとなれば嬉しいです。

発行月：平成27年3月

発行：札幌市男女共同参画センター

【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】

Facebook：http://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904

所在地：〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話：(011)728-1255 FAX：(011)728-1229

ホームページ：http://www.danjyo.sl-plaza.jp



本誌のタイトル「りぶる」は、英語(ripple)で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。